

内容	1. 2023 年(令和 5 年)度年次大会 及び 創立 10 周年記念大会	
	支部長挨拶、来賓挨拶	1, 2
	2022 年(令和 4 年)度茨城県支部活動報告	3
	2023 年(令和 5 年)度茨城県支部活動計画紹介	4
	創立 10 周年記念大会講演	5, 6
	2023・2024 年度 茨城県支部幹事紹介と交流会	6, 7
	2. 原子力科学館・展示館 GW イベント	8
	3. 2022 年度 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会	8
	4. 本田永信前支部長を偲んで	8

1. 2023 年(令和 5 年)度年次大会 及び 創立 10 周年記念大会を開催

2023 年 7 月 22 日(土)13:00~17:20、ハイブリッド(ホテルクリスタルパレス、Zoom による WEB 会議)で、茨城県支部の 2023 年度年次大会と支部創立 10 周年の記念大会が開催された。また、記念大会終了後に同ホテルで交流会を実施し、多くの関係者の親睦を深めることができた。

創立 10 周年記念大会ご挨拶

公益社団法人日本技術士会茨城県支部 支部長 高橋 正衛

公益社団法人日本技術士会 茨城県支部創立 10 周年記念大会にあたり、ご挨拶を申し上げます。

茨城県支部はその前身の茨城県技術士会を母体として、2012 年に設立されました。2023 年 3 月時点における正会員数は 470 名、準会員数は 104 名、新たに県南委員会、業務・地域貢献委員会の下に IoT 推進支援プロジェクト及び環境・防災支援プロジェクトを設置、地域に密着したきめ細かな対応を通じて、技術士活動の活性化を図り、茨城県内関係諸機関と連携しつつ、科学技術の向上と産業経済の発展に貢献して参りました。



高橋 支部長

具体的には、技術士及び技術者の倫理の啓発、技術士の資質向上、技術士制度の普及・啓発、技術士業務の開発及び活用促進、技術系人材の育成、地域社会貢献活動等を推進して参りました。県南委員会は県南での活動強化を目的として設置いたしました。土浦市等地域関係機関と連携した環境保護活動にも注力して参りました。2018 年に茨城県にて開催された世界湖沼会議は、県南委員会を軸に対応させていただきました。又、地域の関係諸機関と技術士及び地域の技術者がオープンな技術交流・情報交換を行う場として、2016 年からはらきオープンテクノフォーラムを毎年開催してきました。地域の DX 推進に貢献できたものと考えております。更に、若手技術士主体の Wi-SE の会を発足させ、若手技術士による講演会・討論会を開催してきました。茨城県の枠を超えた若手技術士のネットワークができつつあります。環境・防災支援プロジェクトを設置してからあまり時間がたっておりませんが、年々重要度が増す環境保護、防災・減災活動に、このチームを中心に注力していきたいと考えております。これからの 10 年を予測・予想することは大変困難ではありますが、科学技術が加速的に進化し、これまで以上に私たちの生活に影響を及ぼすことは確実であると考えます。このような状況を踏まえて、技術士及び技術士会としてのあるべき姿や、活動の軸をどう設定すべきかを、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

当支部の 10 年間を支えていただきました茨城県支部会員の皆様、茨城県産業戦略部を初めとする関係諸機関の皆様、日本技術士会本部の皆様、協賛いただいている各社の皆様に御礼を申し上げます。これからの 10 年もよろしくお願いいたします。

創立 10 周年記念大会の来賓ご挨拶

茨城県産業戦略部次長兼技術振興局長 久保 三千雄 氏

日本技術士会茨城県支部が創立 10 周年記念大会を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。また、本県の産業振興への貢献、及び、茨城県DX推進ラボ活動への協力を御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの 5 類感染症移行で社会活動に活気が戻ってきた一方で、エネルギーや原材料の高騰など県内中小企業が直面している環境は厳しいものになっています。県としましては、省エネ対策支援などを進めてまいりましたが、本県産業の更なる発展には企業自らがビジネスの仕組みそのものを見直すことも必要になると考えております。

そのため、県では新ビジネス創出による中小企業の協創を図るための支援を行い、この 4 年間で約 70 件の事業化に成功し、昨年からは、県内中小企業とベンチャー企業のマッチングを行うなど、積極的に挑戦する企業を応援してきました。今後も、支部の皆様と手を携えて、県の産業振興に取り組んで参ります。ご支援ご協力をお願い申し上げます。



久保 三千雄 氏

創立 10 周年記念大会の来賓ご挨拶

茨城大学 研究・産学官連携機構 准教授 酒井 宗寿 氏

日本技術士会茨城県支部が創立 10 周年記念大会を迎えられたこと、心よりお祝いを申し上げます。私も茨城大学と茨城県支部さんとは、例えば JABEE コース関連の講演会の実施など、かねてからお付き合いをさせていただいております。また、茨城大学出身者からは毎年 20 名程度の技術士を輩出しております。また、本校では JABEE 認定も受けております。さて、私もは、昨今の大学の使命として求められているスターアップの創出に力を入れております。また、地域大学として、地域のニーズに応えられるよう研究成果や人材供給を意識して参ります。

結びになりますが、技術者に求める資質・能力はますます高度化多様化しておりますので、今後さらなる技術士会のご活動を発展させることで、20 年 30 年のお祝いとともに迎えられることをご祈念しております。



酒井 宗寿 氏

創立 10 周年記念大会の来賓ご挨拶

公益社団法人 日本技術士会 参与 竹下 功 氏

茨城県技術士会から日本技術士会茨城県支部に変わって 10 周年、みなさまのご努力及びご苦勞に感謝申し上げます。また、技術士会の活動に対しご支援をいただきました県・市町村及び関連企業の皆様に改めて御礼申し上げます。

本日は、茨城県支部に変更になった理由について紹介させていただきます。私は、20 年前に技術士試験の事務局長をやっておりました。その当時は関東地区に 8 県分の技術士会がありましたが、技術士法の改正とその後の公益法人の見直しで、全て支部に変更になりました。技術士法の改定は、国際的な流れの「常に技術研鑽に努める」「技術者倫理を保って仕事をする」というもので、この改正で技術士や技術士会の在り方が変わりました。そして、その後の公益法人の見直しのときに、現状の県支部に変更となったわけです。今後の更なる 10 年に向かって、みなさまが頑張ってくださいと思っています。

最後に、私は原子力研究所に在籍しておりますが、昨今の原子力状況を顧みますと、是非とも技術会みなさまの英知を結集して、よきアドバイスを発していただければと思いますようお願い申し上げます。



竹下 功 氏

2022年度(令和4年度)茨城県支部 活動報告

「会員技術士の力を結集し、持続可能な社会構築(含む防災)に向けて、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、地域の科学技術の向上と県民経済の発展に寄与する」ことを基本理念として活動を推進した。

また若手会員の活動支援に取り組んだ。なお、今年も取り組んできた行事等は、新型コロナウイルス感染拡大により大きく影響を受けた。

(1) 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ① 7月23日に茨城県支部年次大会を開催した。
- ② 茨城県支部役員会を12回開催し、県支部の運営について協議を行った。
- ③ その他各委員会等の会合を全40回開催した。

(2) 行事

- ① 「2021年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会・講演会」(4月23日)を開催した。
- ② 年次大会(7月23日)及び新年講演会(1月28日)で講演会を開催した。
なお、例年実施する交流会は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した。
- ③ 「いばらきオープンテクノフォーラム」(12月24日)を開催し7社のパネルを展示した。
- ④ 「技術士CPD講座」を3回、「いばらきIoTコ・ラボ勉強会」を3回、「見学会」2回(建設部会合同、栃木県支部合同)を実施した。
- ⑤ 現役若手世代 技術士CPD行事補助費(企画員会)を活用して第4回Wi-SE講演会・グループワーク(2月23日)を開催した。

(3) その他

- ① 県内小中学校等で開催された「おもしろ理科先生」講座等に12回講師を派遣した。
- ② 現代的課題対策講座『日本一の技術士が語るSDGsの世界』を5回開催した。
- ③ 茨城県霞ヶ浦環境科学センター主催の行事に2回出展した。
- ④ 「茨城県支部創立10周年記念誌」を作成した。
- ⑤ 2022年度(令和4年度)市民活動支援事業費補助金を活用した外来生物調査を実施した。
- ⑥ 第17回土浦市環境展に出展した。



活動報告の会場の様子

2023 年度(令和 5 年度)茨城県支部事業計画

茨城県支部は統括本部の事業計画に沿って、地域的な会員活動を一層活発化するよう取り組んでいる。会員技術士の力を結集して、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、国、県、各市町村、関連諸機関、県内企業・団体および県民に対する科学技術の向上と県民経済の発展に寄与してきた。

2023 年度はこれまでの実績を踏まえ、また新型コロナウイルス感染の終息が見通せない環境下で安全確保を優先しつつ、ひとつひとつ成果が結実するよう取り組むと同時に、茨城県支部創立 10 周年を記念して記念行事を実施する。

1. 技術士および技術者の倫理の啓発

「技術士倫理綱領」の理念・主旨を会員技術士へ浸透させるため、講演会、展示会などの機会を捉え技術者倫理の啓発に努める。

2. 技術士の資質向上

技術士法では、技術士の資質の向上を責務としている。このため、日本技術士会は資格取得後の継続的研鑽(CPD)を基本事業の一つとし、現在、技術士制度改革の検討を進めている。茨城県支部ではこのような状況を踏まえ、資格取得後の技術士の更なる資質向上を図る。講演会は会場・WEB 併用開催の推進を図る。

- (1) 「年次大会における講演会」、「新年講演会」の開催
- (2) 「技術士 CPD 講座」の計画的開催 など

3. 技術士制度の普及・啓発

技術士制度の普及・啓発のために、会員への CPD 活動実績の登録支援、広報展開、県及び関連機関、団体などへの技術士の活用促進を働きかけるとともに、技術士制度に関する広報活動を行う。また、開催する講演会などを公開し、技術士制度の普及を図る

- (1) 県および関連機関への技術士の活用及び技術士制度に関する提言や働きかけ
- (2) 県内中小企業の事業支援に関する活動計画の検討 など

4. 技術士業務の開発及び活用促進

技術士としての業務の範囲拡大・普及を目的に、県及び関連機関、団体などへの働きかけを図るとともに地域密着を高めてゆく。

- (1) 茨城県産業戦略部技術振興局技術革新課との意見交換会、他県施策への積極的参加
- (2) 関連機関、団体との連携による支援事業への協力 など

5. 技術系人材の育成

技術士資格取得に向けた修習技術者(技術士第一次試験合格者及び JABEE 認定課程修了者)の修習活動を支援する事業内容の検討と、大学などの教育機関に対する技術士活動の紹介など技術士制度の普及啓発を図る

- (1) 修習技術者への支援体制の充実と日本技術士会への入会促進等
- (2) IPD(初期専門能力開発)活動、若手技術士(Wi-SE)活動の支援と促進 など

6. 地域社会貢献活動

技術士としての専門技術を生かし、地域社会や青少年に向けた科学技術に関するコミュニケーションの促進を行うなど、「科学技術基本計画」(2021 年(令和 3 年)閣議決定)の主旨に沿った活動を推進する。また、地域社会における多種多様な技術的課題に対し、県及び関連機関と連携し、その地域に即した支援活動を推進する。

- (1) 理科教育支援活動
- (2) 各種養成講座への講師派遣
- (3) 県及び関連機関事業、地域企業等との連携
- (4) 環境保全・防災支援活動 など

創立 10 周年記念大会講演

基調講演 1:『房総にあるスゴイ地層の話～「チバニアン」って何?～』

講師：国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質情報研究部門 研究グループ長
博士(地球環境科学) 板木拓也 氏



板木拓也 氏

■国際境界模式層断面「GSSP」(Global Boundary Stratotype Section and Point) について

地球の生命史において、生物相や気候が変化する境界には名前があり、国際年代層序表にまとめられている。これらの時代の境界を詳細に示す地層で、IUGS (国際地質連合) による承認を受けたものを GSSP と呼ぶ。GSSP は、地球の歴史における貴重な価値を世界が認めた証明であって、その価値を示した研究チームがその時代を命名することができる。

■下部-中部更新統境界の GSSP として認定された「千葉セクション」と「チバニアン」

今から 77 万 4 千年～12 万 9 千年前の時代 (下部-中部更新統境界) を示す地層として、日本の「千葉セクション」、イタリアの「モンタルバーノ・イオニコ」、「ヴァレ・ディ・マンケ」の 3 候補が挙がり、それぞれの地層を研究するチームが、2008 年より GSSP 認定を目指して競った。その結果、2020 年に茨城大学の岡田誠教授率いる千葉セクションが、様々な難局を突破して認定を勝ち取った。そしてこの時代は「チバニアン」と命名された。

■候補となる地層が下部-中部更新統境界の GSSP 認定を受けるための 3 要件

- ①地球はこれまで何回も地磁気逆転 (地磁気の N 極 S 極が逆転する) を繰り返している。下部-中部更新統境界は最後に地磁気逆転が生じた時代であるため、候補の地層には地磁気逆転の痕跡がなければならない。
- ②海洋化石から海洋環境の変動が復元できること。海洋化石が豊富であることや、堆積速度が遅い地層の方が、解像度が高いため有利になる。
- ③花粉化石から気候変動の復元ができること。花粉の主である植物を特定することで、その植物が育っていた時代の気候を推定できる。

当初、②、③が豊富な「モンタルバーノ・イオニコ」が環境復元の観点で有利であったが、肝心な地磁気逆転境界を示せなかった。一方で千葉セクションでは①を満たすも②、③で環境復元の解像度が低かった。上述の 3 候補とも、不足する要件を新たな方法で補充・立証して競い、最終的に①～③全てで時代考証の解像度を高めた千葉セクションが承認された。

■日本の地層が GSSP 認定を受けるということ

国土が広大であれば標本が採れる場所も多い。それゆえ GSSP が多いのは欧米・中国である。そんな中で、国土が小さい日本の地層が GSSP 認定を受けたのは大変な快挙である。

我々にとってなじみ深い関東地方の地層が持つ価値を、世界に示すために尽力された研究チームの皆様の努力には、ただただ敬服するばかりである。

創立 10 周年記念大会講演

基調講演 2:『心を持った機械』

講師：早稲田大学理工学術院
名誉教授 工学博士 橋本 周司 氏



橋本 周司 氏

科学技術と人間の未来、そして技術とは何かについて、心を持った機械という夢のようなタイトルで興味深いお話をいただいた。

1. 感性情報処理

- ・計測対象は、物理世界の物理量から始まり、美しさ、景気などの非物理量も対象になってきている。
- ・工学は、計測・制御、情報、メディア、システム、人工知能へと進化。
- ・情報処理では、画像処理、マルチメディア情報処理、メタアルゴリズム、それらを合わせたロボティクスへ

- ・計算から知能へと進化。
 - ・情報処理の階層は、物理レベルから論理レベル、感性レベルへと進化。
 - ・機械命令はコマンド型、数量型、程度型、感性型へと進化。
 - ・自動機械技術は、少品種大量生産のオートメーション、多品種少量生産の産業用ロボット、サービス、満足を与える人間共存、生活空間ロボット、ドラえもんのような心を持った機械へと進化。
- 科学技術の新しい方向として、より速く、永く、大きく、小さく、などの効率尺度から、より楽しく、嬉しく、どの居心地尺度へ移行（スーパーマンからヒューマンへの移行。）

2. システムの複雑さ

システムは、・粒子の速度、位置を表すニュートン力学→温度、圧力、体積を表す統計処理、熱力学、・電子回路→論理回路→デジタルコンピュータ、・ハードウェア→OS→応用ソフトウェア→センサー、アクチュエータ→物理界などの多数の階層から構成されている。ロボットはコンピュータ+身体で構成される。このような複雑なシステムは、設計はできるが、検査は不可能で、システムの診断は健康診断になってきた。

3. ものづくりの変化

新しいものづくりは、”作る”から”育てる”へ

- ・複雑さの増大、・創発的設計と生産、
- ・製品設計→環境設計

システム造りの変革

- ・オープンソフトウェアの活用
- ・ウォーターフォール型開発技法→アジャイル型開発技法

4. 最近の AI

- ・思ったより早く来た AI
- ・AI を前提とした新しい知・学問の在り方が拓ける？
- ・心と最近の AI、理屈を超えた結論

5. 科学技術の行方

- ・20 世紀はサイエンスが技術を抑え込み、技術をリードした特別な時代
- ・それまで科学は技術の後追い。あるいは技術とは無縁。
- ・これからはまた、技術が先を行く時代へ？<アジャイル>
- ・心を持った機械の可能性

6. 心を持った機械（鉄腕アトム、ドラえもん）

- ・心を持っているように見える機械は作れるか？→YES
 - ・心を持った機械は作れるか→NO！
- BUT・・・知りたがる AI、好奇心の組み込み

7. 新しい夢を

- ・未来へ向けて
- 脳から身体へ 自分を知る（心を持った機械へ） 科学の先を行く技術（作るから育てるへ）
- ・実物大ガンダム立像（身長：18m、体重：43 t）→存在が感動を引起す
- ・夢と現実が近づいてきた時代

2023・2024 年度 茨城県支部幹事紹介

2023 年(令和 5 年)度年次大会では、新しい幹事 3 名を加えた 2023・2024 年度の茨城県支部幹事の紹介を行った。各幹事は自身の技術部門、及び、所属する委員会・小委員会などを紹介した。



幹事紹介の様子

茨城県支部 役員（幹事）・事務局 担当一覧（新幹事は太文字表記）

No.	氏名	技術部門	幹事	代表 共通 事務局	委員会等					小委員長等
					総務	研修	広報	業務	県南	
1	縣 邦雄	衛生工学	○						●	
2	飯泉 紀子	情報工学	○	副支部長				◎		中小企業支援小委員長

3	石田 正浩	情報工学	○				○		
4	海老根 昭司	機械	○	事務局次長					
5	大脇 隆志	情報工学、総合技術監理	○	副支部長	○		○		IoT 推進支援 PL
6	大橋 守	経営工学	○			●			
7	小林 守	経営工学、情報工学 総合技術監理	○		◎	●			修習技術者支援 小委員長
8	早乙女 弘	電気電子	○	会計幹事			◎		
9	佐藤 美律子	建設	○	副支部長 事務局長	●				
10	鈴木 博之	電気電子、情報工学、 総合技術監理	○			○	○		理科教育支援 小委員長
11	高橋 正衛	電気電子、総合技術監理	○	支部長					
12	土田 亮二	経営工学	○	情報管理者		◎			
13	寺本 和義	経営工学、情報工学 総合技術監理	○	会計幹事		●			
14	堂本 隆	電気電子、情報工学 総合技術監理	○	会計	○		○		
15	富田 和雄	原子力・放射線 総合技術監理	○				○		
16	濱口 幸雄	情報工学	○	情報管理者			○		IoT 推進支援副 PL
17	深澤 敏章	建設	○	事務局					
18	中村 啓夫	機械、総合技術監理	○					◎	
19	松井 透	金属、経営工学	○	副支部長		○	○	○	
20	松本 宏	電気電子、総合技術監理		支部参与			○	○	
21	岸 敦夫	機械		支部参与			○		
22	市毛 修	電気電子、総合技術監理		支部参与				○	
23	手島 久	建設		会計	○			○	防災支援 PL

◎：委員長 ●：副委員長 ○：委員

交流会

創立 10 周年記念大会終了後、佐藤美律子副支部長の司会で、約 60 名の参加をいただき交流会は始まった。飯泉紀子副支部長の支部挨拶の後、日立パワーソリューションズ上席執行役員井出一正氏、日本技術士会栃木県支部支部長福田一郎氏から来賓挨拶をいただいた。そして、阪本三郎氏からは、支部創立・発展に多大な貢献をされた本田永信前支部長の急逝を偲んだ来賓挨拶をいただき、参加者一同で謝意と共にご冥福を祈った。その後、松井透副支部長の乾杯で交流会の幕が開き、日立製作所柴垣琢郎氏の閉会の挨拶までの間、参加者の皆様は各円卓を回りながら歓談の時間を過ごされた。

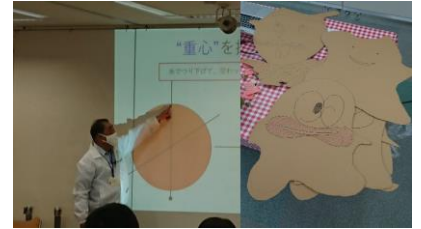


交流会の様子

2. 原子力科学館・展示館 GW イベント

2023年5月3日に原子力科学館 別館（茨城県那珂郡東海村村松225-2）にて小学生など48名を対象に理科教育イベントを実施した。

実施テーマは「重心をさがそう」で、①重心の探し方の説明、②バランスとんぼの作製、③重心の性質を応用したものの展示などを行った。イベント終了後、原子力科学館のスタッフより「子供たちが実験や工作も夢中になって取り組んでおり、重心を応用した展示により、重心への興味や理解が深まったのではないか」との感想を頂いた。



重心の探し方の講義

3. 2022年度 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会

2023年4月22日にワークプラザ勝田大会議室において、会場参加者が41名（合格者15名）、Zoom オンライン参加が7名のハイブリット形式で開催された。3年ぶりの対面交流会で盛り上がった。

<主なスケジュール>

- ① 茨城県支部の活動紹介 高橋正衛支部長
- ② 講演会
演題：『技術士受験の動機、技術士して1年目と今後』
講師：
(1) 茨城県立産業技術短期大学校 技術士(情報工学) 佐藤秀昭氏
(2) ㈱日立製作所戦略企画本部 技術士(機械) 岡直樹氏
- ③ 討論会
司会；若手技術者 (Wi-SE) チーム 技術士(電気電子) 川瀬裕介氏
- ④ 日本技術士会修習技術者支援委員会委員長 挨拶 阿部修一氏
- ⑤ 討論会・活躍する技術士紹介および祝賀会



高橋支部長と合格者一同

4. 本田永信前支部長を偲んで

日本技術士会茨城県支部役員一同

本田永信前支部長は、10周年記念大会を目前にした6月19日に急逝されました。5月に発病し、わずか1ヶ月の闘病で他界されました。享年75歳でした。

氏は、支部の前身の茨城県技術士会の立ち上げから、支部創立へのご尽力されました。その間に、日本技術士会が社団法人から公益法人化への移行や東日本大震災等幾多の課題を克服して支部を創立されました。そして初代支部長として、支部の礎を築かれました。

その功績が認められて2023年度日本技術士会会長表彰を受賞され、さらなる10周年に向けて支部が発展していく矢先の逝去となりました。支部運営に豊富な経験を持った氏の他界は支部にとって大きな痛手ですが、氏が蓄積された伝統をさらに発展させることを約束して恩返ししたいと思います。

改めて本田前支部長のご冥福をお祈りします。



本田永信前支部長

編集後記

◆茨城県支部会報第22号は、7月22日に同時開催した2023年(令和5年)度年次大会及び創立10周年記念大会を主に構成した。これらの大会は、ホテルクリスタルパレスで交流会付きで実施された。10年という時の流れを懐かしみながら次の10年への思いを語りあった記念大会及び交流会は、多くの人たちの親睦を深めた。

広報委員会：早乙女 弘(委員長)、堂本 隆、石田 正浩、高橋 直樹、佐藤 剛、富田 和雄、松本 宏

情報提供は、E-mail：ibaraki@engineer.or.jp まで